

鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査 第16報

ツル類の生息状況に関するアンケート調査 (昭和62年度)

千羽 晋示*1・安部 直哉*2

Studies of the Cranes in Izumi, Kagoshima, Japan. 16.

The Inquiry about the Distribution of Cranes
in western and central Japan

Shinji Chiba*1 and Naoya Abe*2

序

前2年度に続いて、ツル類の渡来・生息状況に関するアンケート調査を行った。本年度(昭和62年度)の調査対象地域は前年と同じく、九州・四国・中国地方・近畿地方・中部地方と東北地方の一部として、1987年秋季の渡来期から翌1988年春季の渡去期にかけてのツル類の記録を問い合わせた。本報では各地からの記録を前2年度の調査報告(千羽・安部, 1987, 1988)と同じ形式で示した。3年度のまとめは別に報告する予定である。

前回調査に引き続き回答をくださった多くの方々にお礼申し上げる。

調査方法

アンケート調査用紙の内容と発送先

昭和62年度のアンケート調査の内容は次頁に示す通りである。前述の調査地域に在住の日本鳥類保護連盟会員、長崎県生物学会々員、そのほか鳥類観察者や研究者に対して、返信用封筒と切手を付けて調査用紙を送付した。

調査用紙の発送先は、前年度調査の回答者を参考に選定し、総計819名の方々に調査を依頼した。

調査結果

調査用紙の回収結果

各県別の回答者数を表1に示した。総回答者数は568名、回収率は69%であった。

*1 国立科学博物館附属自然教育園, Institute for Nature Study, National Science Museum.

*2 神奈川県相模原市旭町22-21, Asahi-cho 22-21, Sagamihara-shi, Kanagawa-ken.

県

国際保護鳥ナベヅル・マナヅルの保護・管理手法に関する研究調査票

国立科学博物館附属自然教育園

ツル類についての調査票 (昭和62年度)

昭和62年(1987年)10月から昭和63年(1988年)4月末頃までの間のツル類の観察記録についておたずねします。

- 1. あなたのお住まいの近く、あるいは県内でツルが飛来したのを見たことがありますか。
(1) ある (2) ない

- 2. 見たことのある方は、次のことについて教えてください。

(1) ツルを見た日

昭和 年 月 日, (午前・午後) 時(頃)

(2) ツルを見た地名

県 市・郡 町・村

(3) 見たツルの種類と羽数

(種名、種類は不明) 羽(位)

(4) ツルがいた環境

(水田・畑・湿地など)

(5) 地上におりていたツルの幼鳥、成鳥別の羽数がわかれば、教えてください。

(6) 飛んでいた(飛来・飛去の方向など)

- 3. 観察記録が多い場合は、各記録ごとに記録①、②、・・・として、2. の(1) - (6)の項目についてこの下に記入してください。

① _____

② _____

③ _____

④ _____

⑤ _____

4. 記入者の御名前 _____, 年齢 才

記入者の御住所 県 市・郡 町・村

御協力ありがとうございました。 昭和63年4月末日までに御返送ください。

表 1. 県別回答者数

秋田	8	三重	16	徳島	10
山形	1	滋賀	8	香川	8
福島	9	京都	20	愛媛	3
新潟	26	大阪	39	高知	10
富山	8	兵庫	45	福岡	35
石川	9	奈良	9	佐賀	5
福井	4	和歌山	8	長崎	53
山梨	5	鳥取	4	熊本	12
長野	34	島根	6	大分	12
岐阜	21	岡山	3	宮崎	9
静岡	27	広島	21	鹿児島	6
愛知	66	山口	5	沖縄	3

回答のまとめ方

- (1)表 1 には回答者数が示されているが、次項では出ていない県は、本調査ならびに他の情報による限り、1987—1988年期にはツル類の渡来記録がなかった県である。
- (2)ツル類の越冬地として知られている鹿児島県出水地方と山口県熊毛地方における記録は除き、各県ごとに種別に記録を示し、年月日、羽数、地名などを記した。幼成が記されている記録では、それを記した。
- (3)一部の記録には、編著者の注記を付けた。

1987年秋期から1988年春期の記録

愛知県

ナベヅル

(1)1988年4月10日、16時頃。1羽。渥美市渥美町伊良湖岬、農業用水調整池。

注記：上記のナベヅルは、この回答者のみの記録で、1988年の春期には東海、近畿一帯ではナベヅルの記録は全くない。

滋賀県

マナヅル

(1)1987年6月上旬、成鳥1羽が守山市、琵琶湖岸の農耕地に出現、同地方の農耕地、野洲川の河原などに同年7月下旬まで観察された。以後、一時、姿を消していたが、1987年10月8日に同地に再出現し、越冬し、1988年3月現在、同地に生息している。

注記：滋賀県におけるこのマナヅルについては前報(千羽・安部, 1988)でも記した。1987年10月に同地に出現したマナヅル1羽が、同年6—7月の個体と同一かどうかは確証はないが、同一個体の可能性が高い。

和歌山県

ナベヅル

(1)1987年12月3日。成鳥2羽。西牟婁市白浜, 富田川の河原。

鳥取県

ナベヅル

(1)1988年3月28日朝。1羽。米子市諏訪の水田跡。

注記：新聞に掲載されている写真から判断すると、この個体は成鳥のようである。

島根県

マナヅル

(1)1988年2月26日午後。1羽。平田市西平田町の水田跡。

山口県

ナベヅル

(1)1987年11月10日, 11時。16羽。吉敷市阿知須, 阿知須干拓地と隣接する北江開作を往復, 熊毛町八代方向に去る。

徳島県

ナベヅル

(1)1987年11月12, 13日。成鳥2羽。小松島市坂野から那賀郡那賀川町島尻にかけての水田跡。

愛媛県

ナベヅル

(1)1987年12月15日。3羽。西条市の水田跡。

高知県

ナベヅル

(1)1987年11月11日, 11時。成鳥2羽と幼鳥2羽の一群。安芸市僧津の水田跡。

注記：この他の記録は、澤田佳長氏からの私信により、澤田佳長（1988）にまとめられている記録を再整理して掲載させていただいた。

(2)1987年11月4日。19羽。中村市竹島。

(3)同日。18羽。宿毛市宿毛, 大深浦。

(4)1987年11月5日。21羽。中村市竹島。

(5)同日。2羽。中村市古津賀。

(6)同日。12羽。中村市八束。

(7)同日。4羽。安芸市。成鳥2羽, 幼鳥2羽。

(8)1987年11月6日。4羽。宿毛市下り松上空。

(9)同日。15羽。中村市竹島上空。

(10)同日。36羽。中村市森沢上空。

(11)1987年11月7日。8羽。宿毛市宿毛上空。

(12)同日。6羽。中村市竹島。

(13)同日。4羽。中村市有岡。

(14)1987年11月8日。3羽。中村市江の村。

(15)同日。26羽。中村市森沢。

(16)同日。8羽。中村市森沢。この他にカナダヅル1羽が初めて観察された。

- (17)同日。2羽。中村市有岡。
- (18)同日。6羽。中村市竹島。
- (19)同日。8羽。中村市磯の川。
- (20)1987年11月9日。39羽。中村市江の村。このナベヅルとともにカナダヅル1羽。
- (21)同日。30羽。中村市磯の川。このナベヅルとともにカナダヅル1羽。
- (22)同日。5羽。宿毛市大深浦。
- (23)1987年11月10日。56羽。中村市森沢上空。
- (24)1987年11月11日。19羽。中村市磯の川。
- (25)1987年11月12日。21羽。同上所。
- (26)1987年11月14日。29羽。同上所。
- (27)同日。6羽。同上所。
- (28)同日。35羽。中村市間。
- (29)1987年11月15日。44羽。中村市間。
- (30)1987年11月21日。29羽。中村市江の村，中山。
- (31)1987年11月22日。35羽。中村市磯の川。
- (32)1987年11月28日。3羽。中村市国見。
- (33)1987年12月3日。5羽。中村市磯の川。
- (34)1987年12月10日から翌1988年2月21日まで，5羽のナベヅルが中村市辰の口，奥山地，中山，国見，四万十川中洲で観察され，5羽が越冬した。

カナダヅル

- (1)1987年11月8日。1羽。中村市森沢で初めて観察され，11月17日まで生息した。

注記：この個体と思われるカナダヅル1羽が1987年11月19日に鹿児島県出水で観察され，以後，越冬した。

福岡県

マナヅル

- (1)1987年10月末頃から成鳥1羽が福岡市西区今津の農耕地に渡来した。以後，同地で越冬。1988年2月11日まで観察されている。

ナベヅル

- (1)1988年4月5日，6日。13羽。福岡市西区今津の農耕地。

佐賀県

マナヅル

- (1)1988年2月26日，27日。3羽。伊万里市中浜干拓に降りて一泊し，27日に北上。

ナベヅル

- (1)1988年4月5日。64+羽。東松浦郡鎮西町神集島上空。

種不明

- (1)1988年3月8日。4羽。東松浦郡呼子町加唐島上空を北へ。

長崎県

長崎県の記録は九州本島地域と壱岐・対馬に分けて示した。北松浦郡生月町に在住の荒田幸生氏からいただいた生月島における地図付きの詳しい記録は，文章に換えて示した。

1. 九州本島地域

マナヅル

- (1)1987年11月29日, 15時5分。4羽。北松浦郡生月町生月島南部上空を北北西から南南東に。
- (2)1988年3月10日, 11時30分頃。3群・約200羽。長崎市稲佐岳上空, 100—300mを南南東から北北西に。
- (3)1988年3月13日, 12時30分頃。2群・約150羽。西彼杵郡崎戸町本郷上空, 200—300mを東南から北西に。

ナベヅル

- (1)1987年10月29日。4羽。諫早市赤崎, 諫早湾干潟。
 - (2)1988年11月6日, 9時30分。20羽。北松浦郡生月町生月島北部上空を北西から南東に。
 - (3)同日, 11時0分。50羽。生月島中部上空を北西から南東に。
 - (4)同日, 14時20分。60羽と34羽の2群。生月島中部上空を北西から南東に。
 - (5)同日, 16時40分。59羽。生月島中部上空を北西から南東に。
 - (6)同日, 17時20分。150羽。生月島北部上空を北西から南東に。
 - (7)1987年11月5日。9羽。諫早市小野島新地, 水田跡。
 - (8)1987年12月20日。3羽。北高来市森山町, 森山干拓の水田跡。
 - (9)1988年1月下旬。7羽。諫早市小野島の水田跡。
 - (10)1988年1月31日。成鳥6羽と幼鳥1羽。諫早市赤崎の水田跡。1988年2月14日頃まで同地域に生息。
- 注記: 上記の(7)―(10)の記録および他の情報から, 諫早市から森山町にかけての農耕地に10羽前後のナベヅルが1987年11月上旬から生息し, 少なくとも7羽(成鳥6羽, 幼鳥1羽)がこの地域で越冬した。
- (11)1988年3月4日, 15時20分。100+羽。北松浦郡生月町生月島北部上空。東—東南から飛来して北東に。
 - (12)1988年3月13日, 13時45分—57分。58羽と32羽の2群。生月島北部上空を南南東から北西に。
 - (13)1988年3月19日。17時30分, 52羽が生月島中部上空に南東から飛来し, 同島北端上空で方向を南に変え, 18時45分に同島中部に降りる。
 - (14)1988年3月20日, 17時5分。13羽。生月島中部上空に南—南東から飛来し, 同島北端上空で方向を南に変え, 同島中部上空から東に。
 - (15)1988年4月9日, 12時0分。6羽。生月島中部上空に南—南東から飛来し, 同島北端上空から西に。

種不明

- (1)1987年11月29日, 12時49分頃。50羽以上。長崎市本河内町, 奥山上空から田手原の方に, 北東から南西に。
- (2)1988年3月9日, 13時。5群・124羽。西彼杵郡大島町上空を北西に。
- (3)同日, 同時刻。134羽。西彼杵郡大島町, 大崎高校上空50m, 西彼杵半島の方向から飛来し, 平戸の方向に(南東から北に)。
- (4)1988年3月10日, 14時。20羽。平戸市岩の上町上空。
- (5)1988年3月11日, 11時。3, 4群の200羽。長崎市泉町, 浦上水源地上空を南から北に。
- (6)同日, 同時刻。7群約200羽。長崎市弥生町上空。

(7)同日, 14時。20羽。平戸市岩の上町上空。

(8)1988年3月13日, 12時20分。約50羽。西彼杵郡野母崎の上空を北に。

(9)1988年3月19日, 12時過ぎ。約70羽。同上所の上空を北に。

(10)1988年4月5日, 11時45分。約50羽。北高来郡森山町森山ゴルフ場上空。天草方面から飛来して有明海の方に。

2. 壱岐・対馬地域

マナヅル

(1)1988年2月19日, 18時頃から翌20日朝。50羽, 全部成鳥。壱岐市芦辺町深江田原の水田跡。

種不明

(1)1988年2月19日, 18時40分。約60羽。上県郡上県町鹿見上空を北に。

(2)1988年3月4日, 18時0分頃。約250羽。同上所の上空を西に。

(3)同日, 18時40分頃。約100羽。同上所の上空を西に。

注記：1988年2月19日には, 出水からマナヅルのみ約230羽が繁殖地に向け渡去しているのので, 上記(1)の対馬における記録は, マナヅルであろう。

熊本県

マナヅル

(1)1988年2月13日, 17時30分頃。成鳥1羽。天草郡河浦町, 水田跡。

ナベヅル

(1)1987年11月4日, 16時頃。7羽。天草郡河浦町一町田, 久留の水田跡。

(2)1987年11月12日, 10時。成鳥2羽と幼鳥1羽。天草郡河浦町新合の上空。

(3)1987年11月26日。3羽。成鳥2羽と幼鳥1羽。天草郡新和町大宮地。

(4)1987年11月29日。4羽。牛深市二浦町亀浦。

(5)1988年1月2日。天草郡新和町大宮地。(3)で記した3羽と思われる成鳥2羽と幼鳥1羽の家族が生息している。

(6)1988年2月20日。成鳥2羽と幼鳥1羽。同上所。

マナヅルとナベヅル

(1)1988年3月6日, 10時50分—11時40分。約400羽(マナヅルは少数で, 大部分はナベヅル)。天草郡天草町, 荒尾岳上空。出水の方から野母崎の方向に。

大分県

ナベヅル

(1)1987年11月28日, 9時30分。成鳥2羽と幼鳥2羽。大野市緒方町天神の水田跡。すぐ飛去。

同日, 10時—11時30分。成鳥3羽と幼鳥1羽。同市同町中馬背畑。

注記：回答者により成鳥と幼鳥の羽数が異なっているが, 同じ4羽であろう。

宮崎県

ナベヅル

(1)1987年11月29日, 15時。成鳥2羽と幼鳥1羽。宮崎市塩路, 水田跡。北方に飛去。

(2)同日。成鳥1羽と幼鳥3羽。同市塩路北部の水田跡。

注記：上記の(1)と(2)の記録による一部は同じ個体かもしれない。

鹿児島県

ナベヅル

(1)1988年3月3日, 8時5分。2羽。熊毛郡上屋久一湊上空。

結 び

1987年秋期の渡来期から1988年春期の渡去期には, 愛知, 滋賀, 和歌山, 鳥取, 島根, 山口, 徳島, 愛媛, 高知の各県と九州の全県でツル類が記録された。

鹿児島県出水地方と山口県熊毛町八代のほかに, 滋賀県でマナヅル1羽, 高知県でナベヅル5羽, 福岡県でマナヅル1羽, 長崎県でナベヅル10羽前後, 熊本県でナベヅル数羽が越冬した。

対馬在住の回答者からの情報によると, 本年期は前2年に比較して, 対馬においてはツル類の記録が明らかに少なかった。

高知県では, 1987年11月上旬から中旬にかけて, 19羽から56羽のナベヅルの群が観察され, 例年になく渡来数が多かった。

文 献

千羽晋示・安部直哉. 1987. 鹿児島県出水平野におけるツル類の基礎調査 第2報. ツル類の生息状況に関するアンケート調査(昭和60年度). 自然教育園報告, 18:23-31.

———・———. 1988. 同上 第7報. 同上(昭和61年度). 同上報告, 19:31-40.

澤田佳長. 1988. 高知県におけるツル類渡来の基礎的研究②——渡来記録とナベヅル給餌. 高知県立宿毛高校研究紀要, 6:1-17.